



土山浩司さん

**興味を持つ人材を**  
土山 少子高齢化などの人口減少で、地域の伝統行事の祭りなどが

**若い力を活用**  
垂井 若い世代は、わたしたちが思い付かない視点や、忘れてしまっていることを拾い上げる力を持っている。津山をどう思っているか、どんなまちになってほしいかなど、実際の声を聞いてみたいです。その上で、若い世代が自分のまちに興味を持ち、未来のまちづくりに積極的に参加してくれるような環境づくりが必要と考えます。

**構想実現のために**  
市長 構想を形にしていくなために、解決すべき課題は何でしょう。

**まち全体の意識の底上げ**  
須江 ささまざまな地域の魅力を結集し、発信するためには、住民やいろいろな団体の協力が必要になると思います。「津山をこうして

存続の危機に直面しています。神輿を担ぐ人や、だんじりを引く人も減っていて、今まで開催できていたから、今後もできるだろうという考えが通用しなくなってきました。伝統行事を含む、地域で行われているいろいろなことに興味を持ち、積極的に動いてくれる人材を増やすことが課題だと思います。

**まちが変わっていく姿を発信**  
春名 津山にはたくさんの方の素材があります。素材自体の見せ方や、歴史や地域との関わりなどのストーリーを編集して形にし、その情報を発信していくことが必要だと思います。

**津山の魅力が結集**  
早田 まちじゅう博物館構想は、住民の皆さんが主体となって、さまざまな視点から、地域の大事なものを見付け、守っていく「エコミュージアム」という考えを取り入れたものです。



早田幸さん

1960年代にフランスで提唱され、日本ではあまり例がありません。市内に点在する魅力が、点から線になり、面になる、津山の底力が結集する素晴らしい取り組みだと思います。

**より分かりやすく伝える**  
早田 取り組みの具体的な内容を「分かりやすく」伝えることは課題だと思います。特に次の世代を担う子どもたちに興味を持ってもらうことが重要です。

いくんだ」という、より強い目的意識の統一が大切です。まずは、それぞれが自分たちのまちに興味を持ち、まちを知り、好きになって、次の世代の子どもたちや、観光客にも「津山ってこんなすばらしいところがあるんだ」と、胸を張って言えるような意識づくりが必要だと思います。



共通するテーマで城東、城西、城下などのエリアに分け、まち全体を一つの博物館と捉える例



津山市長 谷口圭三

**津山を未来に引き継ぐ**  
市長 津山は、独特の歴史や文化、自然に彩られたすばらしいまちです。市内に点在する津山らしさを、住民と行政が一体となつてつなぎ合わせ、新たな魅力を創造することが、まちの未来には必要と考え、構想を策定しました。現在、構想の具体的な取り組みを進めています。皆さんが構想に携わって感じたことなどを教えてください。

**楽しく、面白い取り組みに**  
垂井 市民懇談会では、津山の魅力や、その活かし方などについてグループに分かれ、話し合いと発表を繰り返しました。自分が知らなかった地域の魅力を知り、今後構想の下でどのようにつながっていくか想像すると、わくわくした気持ちになります。たくさんの方に興味を持ってもらうためには、取り組みが「楽しい」「かっこいい」

「面白い」ものになってほしいです。  
**歴史や文化を未来につなぐ**  
土山 わたしは、令和2年から3年間、地域おこし協力隊として城東地区を拠点に活動し、現在も津山の洋学・蘭学を広める活動に取り組んでいます。津山には、箕作阮甫を筆頭に、宇田川家3代など、すばらしい人物を輩出した歴史があります。まず住民の皆さんがこれを知り、後世につなぐことが一番大切だと思い、活動してまいりました。そんな中で始まったまちじゅう博物館構想の内容に共感し、参加しました。

**挑戦を妨げない**  
春名 市外出身のわたしは、市民懇談会に参加したことで、たくさん津山の魅力を知ることができました。何気ない日常の中には、たくさんの方の学びや発見があり、何かやりたいと思った時に、挑戦を妨げない環境づくりが大事だと思います。みんなが考えを出し合い、混ぜることで生まれる化学反応を楽しめる構想にしていきたいです。



▲市民懇談会の様子

**意識づくり**

- 地域の魅力などの調査発掘
- 市民懇談会の開催 など

**土台づくり**

- 重伝建地区の景観整備
- 主要施設の案内用ピクトグラム(図記号)制作 など



**人づくり**

- 「津山郷土学」の推進
- 地域の担い手、若手事業者の育成 など



**施策づくり**

- 城泊など歴史遺産の積極的な活用
- 大学生、高校生などとの連携 など

